

《巻頭言》

2014年 第8回日本禁煙学会 学術総会の年を迎えて

第8回 日本禁煙学会学術総会 会長、NPO 法人 日本禁煙学会理事
沖縄大学人文学部福祉文化学科教授

山代 寛

本年11月15日(土)と16日(日)に、第8回日本禁煙学会学術総会を沖縄コンベンションセンターで開催する。会長という大役を仰せつかり、身が引き締まる思いで新しい年を迎えた。喫煙者を「悪」ととらえず、非喫煙者vs喫煙者の対立軸をなくし、タバコに支配されない人間社会の構築を目的として沖縄大学に沖縄ニコチン依存症研究会を立ち上げて5年、タバコフリーアイ(愛)ランド沖縄をめざして活動しているが、学会のテーマも「めざそうタバコフリー愛ランド」とさせていただいた。

喫煙対策は観光立県を目指す沖縄の重要な課題だが、おとなりの台湾や香港、タイ、シンガポールなどに大きく遅れを取っている。そこで学会の特別講演はハワイ大学Mark Levin教授に脱タバコの先進地ハワイの成功例から沖縄・日本の進むべき道を示していただきたいと考えている。

沖縄はハワイに引けをとらないサンゴ礁に囲まれた美しい島々であり「うるま」と美称される。新しい基地建設で自然や安全を失いたくない、この「うるま」をまもっていききたい、というのが県民の大多数の願いだ。しかし一方で沖縄を蝕む「うるま」がある。沖縄県内限定販売のタバコ「うるま」だ。沖縄の貧困層の多くがこの「うるま」やさらに低価格の「Violet」を吸わされ続けている。沖縄の貧困率、ワーキングプア率は全国最悪だが、その背後にタバコを始めとする依存症がある。そこで「貧困とタバコ」の問題を題目としたシンポジウムを本学会の目玉として計画している。

沖縄県は貧困率の他にもCOPD罹患率、メタボ率、アルコールによる肝硬変、ドメスティックバイオレンスなど依存症関連の日本一が目白押しで、長寿県復活の実現のためにもそれら依存症への対策が重要だ。そんな思いをこめて県内の依存症の専門家たちと交流するグループ(ANDOGネットワーク 愛称: 沖縄アンダーナツ)を一昨年立ち上げ



ることができた。ANDOGとは、以下5つの依存症、A Alcohol N Nicotine D Drug O Overeating & severe Obesity G Gamblingの頭文字だ。これまで同じ依存症ファミリーでありながら、意外なほどに交流がなかった近接領域の援助職が交流し、どの領域についても必要最低限の支援はできるようになることを目的にしている。現在会員数は100名を超え学会開催の力になっているが、なかでもNPO法人アルコール・薬物依存症リハビリセンター琉球GAIA (<http://www.ryukyu-gaia.jp>)の参加が頼もしい。GAIAは「沖縄の大自然の中で、仲間と共に楽しみながら、ゆっくりと着実に回復を目指すこと」を理念に設立された施設で、沖縄で活動し始めて10年以上になる。学会のもう一つの目玉としてニコチンと他の依存症との関連についてのシンポジウムも予定しているが、シンポジストとしてGAIAの鈴木文一代表に登壇いただく予定だ。真の癒しの島をめざす活動を全国発信してほしい。

沖縄にいると日本という国のことがよく見える。是非ともお誘い合わせの上、演題をお持ち寄りいただき、来場していただきたい。依存症のない国造りの一歩を全国の学会員とともに、ここ沖縄からふみだせることを願っている。めんそーれ沖縄へ。